

# ハッピー通信



2023年11月14日発行

23-46号

(<http://www.jremnant.com/>)

現場から（最近のニュースから）

## 生かされている



10月8日に歌手の谷村新司さんが亡くなりました。堀内孝雄さん、矢沢透さんとアリスを結成、「冬の稲妻」「チャンピオン」など数多くのヒット曲を送り出す一方、ソロ活動や楽曲提供なども積極的に行い、「陽はまた昇る」「昴-すばる-」「群青」「サライ」「いい日旅立ち」などのヒット曲を手がけた方でした。亡くなったあと、すばらしい方であったと、さまざまな人が記事にしていますが、その中から、谷村さんがどのように人生を歩んだか、どんな考えを持っていたのかをインタビューした記事がありました。

谷村さんが音楽をしたのは、「女の子にモテたかったから」だったそうですが、音楽をしている中で、人々が歌で感動してくれて「何かが動き出した」ということです。アリスの他の2人と出会ったとき、直感でいっしょにしようと思ったと言われています。高いステージにまで行くという確信めいた直感を持って、ヒット曲が出ないときも、「助走期間」だと思って、高いステージにふさわしい行動になるように、自分自身がそれにふさわしくなるように努力し続けたそうです。また、ヒットしてからも、同じところにいることはできないと分かっていたので、上から見る視線、鳥の視線で客観的に自分たちを見て、次の山を見据えて、アリスの行動を停止したということです。次の山はソロ活動をすることで、小説を書いて大切なことを伝えようとしたということです。生きるために大切なことが分からないなら、食って、寝て、排泄して、動物と変わらないだろうと言われていきます。そして、その大切なこととは、「われわれは生きているのではない。生かされているのだ」ということだと。「心臓を自分の意思で止めようとしても止まらない。つまり、生きているのではない。生かされているのだ」と。それが分かるなら、生きる姿勢は変わるということです。谷村さんは、物事はすべてつながっているので、中国に行って歌ったとき、国と国とをつなぐなにかをずっと思っていたら、出会いがあって、何かをするようになったということです。それゆえ、人からの評価を気にせず、そのとき、そのとき、自分のベストを尽くして、出し惜しみをせずに表現してきたということです。そして、何をしたいのか、どうなりたいのか、自分の仕事の成功は何を意味するのか、何が自分の幸せなのか…それらをはっきりさせて、自分を信じて動いて来たということを語っておられたそうです。（10月23日ForbesJAPAN<谷村新司が遺した珠玉の言葉——目指すものを心から信じ切れるか>by 上坂徹より）

何かに生かされていることを認め、自分は何をどうしたいのか自分の意志を持って信じ続けて、その時々以最善を尽くしていたら、出会いが与えられ、次々とつながってきたということでしょう。信じられることを描けない人に対して谷村さんは「(描けないというのは)それは違うのだ。自分を信じるから、描いた絵にたどりつけるのだ」と言われていたそうです。すばらしいです。しかし「何かに生かされている」なら、その「何か」は自分ではありません。その自分ではない「何か」が分からないまま、自分を信じて自分で描く人生は、「自分が生かされている理由」とは合わないことが多いのです。いったい何によって生かされているのか、それを先に知る必要があります。いつまでも自分が自分でなんとかしようとするのではなく、あなたの人生に目的を持って生かしている「何か」について、いっしょに考えてみませんか。



## 救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください